

労働図書館新着情報

今月の図書紹介

<p>①脇田成著『賃上げはなぜ必要か』筑摩書房(374+v頁,四六判) 賃上げを行うことで、消費が伸び、企業の生産・販売活動が活発化し、労働者の所得が増加、それに伴い、新たな雇用が創出される。こうした好循環を生み出すため、アベノミクスを掲げる政府は、先の春季労使交渉で、労使に異例の賃上げを要請。本書は、日本経済に元気がないのは、90年代以降、企業が国内投資と人件費を抑制し、内部留保を増大させ、経済全体の資金循環が大幅に狂ったことによると解説。過剰な企業貯蓄を正すため、賃上げを行い、資金循環の再始動が必要だとマクロ経済政策の本筋にそった日本経済再生論を提示。著者はまた、日本経済の問題として財政悪化、社会保障制度とともに少子高齢化をあげ、粛々と対策を打っていくことも提案している。</p>	<p>③猪木武徳編『働く>は、これから』岩波書店(xii+212頁,四六判) 「仕事の内容や就労形態の多様化のなかで、どこに労働の意味と位置づけを見出すのか」「高齢化と人口減少は、ライフコースにどのような影響を及ぼすのか」など6人のそうそうたる経済学者、社会学者らが、6回の現地調査と統計データ、6人の専門家の報告と質疑応答に基づき分析。雇用改革については、新規学卒一括採用や長期雇用制度の維持を主張する一方、定年年齢の引き上げとセットで年功賃金のフラット化を提唱。日本人は、高齢期になっても就労意欲を失わず、企業が高齢者に求める能力を持っていれば、高齢者であっても中途採用されると主張、最終章で編者は、労働における自発性と協働性の重要性を指摘。「成熟社会の労働哲学研究会」が生んだ成果である。</p>
<p>②見波利幸著『劣化するシニア社員』日本経済新聞出版社(205頁,新書判) 改正高年齢者雇用安定法の施行により増加しているシニア社員がいま、縦横無尽な振る舞いで多くの職場を翻弄している。長年培ってきた技術や専門性を若手社員に継承できれば活用法は成功。しかし、自己愛が強く職場になじめず、過去の栄光から新たな知識やスキルを身につけるのに躊躇してしまう人が少なくない。著者は、シニア社員の問題を6つのタイプに分け、背景的要因を探り、有効な対策を検討する。一方、受け入れる側の問題として、管理職の配慮不足などやる気を奪う職場環境や周囲の社員の思い込みにも言及、若手と同じ配慮が必要だと主張する。シニア本人も苦しんでおり、働く意味も見失いやすいので、新たな「仕事の価値観」の創造が必要だとも強調。</p>	<p>④リヴァフロイモフ著『僕たちが親より豊かになるのは不可能なのか』阪急コミュニケーションズ(276頁,四六判) 公的助成の減少に伴う教育システムの弱体化、低賃金労働の急増、経済回復後も高い貧困率、不平等格差の拡大。1976年～2000年に生まれた米国のY世代といわれる若者は、賃金は低く、雇用は不安定で、税金は高いのに、社会保障は減る層だとされる。いずれも日本にも当てはまる問題だが、欧州連合(EU)や新興国にも共通のものであると指摘。若者は世界中の労働市場で不利な立場に置かれ、低収入の仕事の連鎖に巻き込まれている。著者は、史上もっとも高学歴なのに職につけない若者のために「青年局」の設置を提案するとともに、4年制大学に代わる選択制や奨学金の増額、インターンシップ・プログラムや職業指導・技能訓練などのごく真つ当な雇用政策も提唱。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

主な受け入れ図書

(2014年3—4月労働図書館受け入れ)

⑤北村行夫他編『Q & A引用・転載の実務と著作権法』中央経済社(iv+10+240頁, A5判)	⑬西村淳著『所得保障の法的構造』信山社(xi+293頁, A5判)
⑥リリー・レッドベター他著『賃金差別を許さない!』岩波書店(vi+295頁, A5判)	⑭新谷真人編『労働法』弘文堂(xii+240頁, A5判)
⑦中原茂樹著『基本行政法』日本評論社(480頁, A5判)	⑮高仲幸雄著『実務家のための労働判例読みこなし術』労務行政(431頁, A5判)
⑧橋本博之著『行政法解釈の基礎』日本評論社(282頁, A5判)	⑯吉田利宏著『実務家のための労働法令読みこなし術』労務行政(223頁, A5判)
⑨正木宏長著『行政法と官僚制』成文堂(vi+263頁, A5判)	⑰細谷越史著『労働者の損害賠償責任』成文堂(viii+220頁, A5判)
⑩秋武憲一他編著『離婚調停・離婚訴訟』青林書院(xxvii+278頁, A5判)	⑱小川和憲著『労働力価値論の再検討』鉅脈社(89頁, A5判)
⑪岡口基一著『過払金・消費者保護・行政・労働』ぎょうせい(xviii+607頁, A5判)	⑳石井京子他著『人事担当者のための発達障害者の面接・採用マニュアル』弘文堂(viii+173頁, A5判)
⑫東京地裁破産再生実務研究会編著『破産・民事再生の実務』金融財政事情研究会(30+487頁, A5判)	㉑日本エクストリーム出版社編『サラリーマンは早朝旅行をしよう!!』SBクリエイティブ(174頁, 新書判)
⑬塩見治人他編著『名古屋経済圏のグローバル化対応』見洋書房(x+304頁, A5判)	㉒大村美保著『一般就労する知的障害者の経済的自立と地域生活』久美(142頁, A5判)
⑭ピセン・ナバロ他著『もうひとつの道はある』拓植書房新社(277頁, 四六判)	㉓荒牧重人他編『子どもの権利アジアと日本』三省堂(221頁, A5判)
⑮吉川達夫他編著『コンプライアンス違反・不正調査の法務ハンドブック』中央経済社(ii+vi+204頁, A5判)	㉔古郡頼子他編著『肥満と生活・健康・仕事の格差』日本評論社(x+253頁, A5判)
⑯古沢昌之著『「日系人」活用戦略論』白桃書房(xi+251頁, A5判)	㉕緒方俊雄著『すぐ会社を休む部下に困っている人が読む本』幻冬舎(219頁, 新書判)
⑰石寄信憲他編著『懲戒権行使の法律実務』中央経済社(xvii+666頁, A5判)	㉖長田華子著『バングラデシュの工業化とジェンダー』御茶の水書房(xxii+313頁, A5判)

労働図書館(資料センター)

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書115,000冊、洋書30,000冊、和洋の製本雑誌25,000冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(285種)、洋雑誌(120種)、紀要(510種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23

開館時間: 9:30 ~ 17:00

休館日: 土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日~1月4日)、その他

電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659

労働図書館 HP: <http://www.jil.go.jp/lib/index.htm>

利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください

レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています

